

東南アジア大陸部の焼畑村落における 家畜飼育

発表者：中辻享（甲南大学）・中井信介（大谷大学）

東南アジア大陸山地部では古くから焼畑による陸稲栽培がなされてきた。そしてあわせて、この地域で重要な生業であったのが家畜飼育である。ところが、この地域に住むさまざまな民族がどのように家畜飼育を営んできたのかということは十分に明らかにされていない。本発表ではラオスとタイのカム族とモン族を事例とし、現在における家畜飼育を詳細に検討する中で、この地域の伝統的な飼育のあり方とその変化について考えたい。（発表者要旨より）

中辻享（甲南大学）

「家畜飼育拠点としての出作り小屋
—ラオス北部の事例」

First speaker 16:00～16:45

ラオス北部ルアンパバーン県を事例とし、この地域に多い出作り小屋（「サナム」）が家畜飼育と密接に関わるものであることを、病気、飼育形態、飼料の面から示す。



中井信介（大谷大学）

「生業の継続性
—タイ北部における家畜飼育の事例」

Second speaker 16:55～17:40

タイ北部ナーン県のモン族の村を事例とし、飼育技術や利用形態に関する調査から、当地域で小規模な家畜飼育が継続される要因を示す。



Discussion 17:50～18:30



日時：2013年4月19日（金）16時より
場所：京都大学総合研究2号館4階
（AA447）

研究会ホームページ：<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/seana/>

お問い合わせ先：
大出 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
oide@asafas.kyoto-u.ac.jp
柳澤 京都大学地域研究統合情報センター
masa@cias.kyoto-u.ac.jp

参加費・事前登録は不要です。奮ってご参加下さい。
また、会后には懇親会を予定しております。